

# IWCCの思い出

社団法人日本銅センター副会長  
(住友電気工業株式会社 社長)

松本 正義



私の本格的な銅との付き合いは一九八五年からのロンドン駐在時に遡ります。IWCC (International Wrought Copper Council) 国際銅加工業者協議会の銅委員会メンバーとして産銅会社、精錬会社、加工会社、そしてLMEの各層の方々と幅広く交流させて頂きました。新しい世界であり想像以上に奥深い仕組みと様々な人間模様、私にとっては勉強の毎日でした。銅委員としてIWCCに関与した期間が私にとって、いわば銅大学での訓練期間ではなかったか、と思います。

私の赴任と前後してIWCC専務理事に、ペイトン氏(現・IWCC事務総長)が就任され、以来二十余年余り親交を続けています。氏はセントアンドリュース大を卒業した俊才であり、彼とは銅の世界は申すに及ばず文化比較論、世界経済、多国籍で構成されるIWCCの運営上必要な国民性比較、特に日の出の勢いで経済力を蓄えていった当時の日本と英国の比較論議等を通じて、極東の地からやってくる物知らずで、一人よがりの日本人にとって考えさせられるところが多々あり、何だか世の中がぱっと明るくなり、いっぱしの国際人になった気分になりました。

一九八五年のIWCC会長はスウェーデンのグスタフソン氏(後にICA International Copper Association 国際銅協会の初代会長。ニューヨーク本部に赴任)でもとも

く絶妙な会議運営術と軽妙なユーモアで複雑な会員構成のIWCCを上手くまとめておりました。彼からは国際会議を運営する知恵を学びました。その後、英国のパトラー博士、ドイツのブローダセン氏と個性豊かな会長が三代続きましたが、彼らとは、今でもクリスマスカードを交換し友好の絆を保っています。

昨年IWCC副会長に就任し、再度、IWCC組織運営に関ることになった今、偶々縁がありお付き合ひさせて頂いた、昔日の有能で人間味溢れる歴代の会長の言動を参考に、務めさせて頂きたい、と念じる次第です。



IWCC総会後のパーティにて

## 銅 目次

- 2 カパーロマン  
IWCCの思い出  
松本 正義
- 3 銅の歴史物語  
道具が料理のうまさを引き出す  
湯豆腐料理  
ルポルタージュ  
ビッグバンを解き明かす——  
一周三キロの銅ビームパイプに素粒子が走る  
リレー随想
- 4 印刷から芸術へ  
銅を学ぶ銅話の世界  
銅山とベンガラの間  
「吹屋」
- 8 カパーワールド  
グランドゼロの復興現場に「銅管」の姿を見た  
カパーストラクチャー
- 9 自然素材と銅の融合で広がっていく  
藤森照信の世界
- 10 カパードリーム  
銅の細胞をもつ生物たちが住まう世界  
Coppers 早川
- 12 銅の需給動向  
銅センターニュース  
トピックス
- 13
- 14
- 15